

2015 年度  
環境活動レポート

対象期間  
2014 年 9 月～2015 年 8 月

2015 年 10 月 21 日

昭和ネームプレート株式会社

# 環 境 方 針

昭和ネームプレート株式会社は、事業活動において

① 地球環境の保全が人類共通の最重要課題であること

② 地域社会の環境保全が地域の発展及び共存の上で重要であることを認識

し、可能な限りの範囲で目標を定め、省資源、省エネルギー、

リサイクルを推進し、環境負荷に配慮した活動を実行します。

それらをふまえ下記に環境方針を定め継続的に改善します。

1. 廃棄物の削減及びリサイクルの推進
2. 電気・ガソリン・ガス等のエネルギーの削減
3. 水資源の節水
4. 化学物質を正しく使用し管理する
5. 環境関連法規制等の遵守
6. グリーン購入の実施
7. 長期的に LED 照明への推進

2015年10月21日

昭和ネームプレート株式会社

代表取締役 瀬田 昭男

## 事業活動の概要

- (1) 会社名 昭和ネームプレート株式会社
- (2) 代表者 代表取締役社長 瀬田昭男
- (3) 設 立 1957年（昭和32）4月29日
- (4) 資本金 1,000万円
- (5) 事業内容 ネームプレート・パネル・ラベルの製造及び販売
- (6) 事業規模 年間売上 約485百万円（2016年度実績）  
従業員 36名
- (7) 本社所在地 東京都荒川区荒川6-52-10  
TEL 03-3892-4221（代） FAX 03-3892-4222
- (8) 審査対象工場 昭和ネームプレート株式会社 埼玉工場  
埼玉県越谷市蒲生3882-1  
TEL 048-988-7611（代） FAX 048-986-6261  
E-mail [kamiya@showa-np.com](mailto:kamiya@showa-np.com)
- (9) 工場規模 延面積 約1,089㎡
- (10) 環境管理責任者  
代表者 代表取締役社長 瀬田昭男  
管理責任者 管理部部長 神谷丈夫

## 環境目標とその実績

		2015 年度 実績	2013 年度 2012.9 ~ 2013.8 (実績) BM	2015 年度 2014.9 ~ 2015.8 (目標)	2016 年度 2015.9 ~ 2016.8 (目標)	2017 年度 2016.9 ~ 2017.8 (目標)	
二酸化炭素排出量削減	電力の削減	総量 (kWh / 年)	106914	113433	111164.34 (2%)	110030.01 (3%)	109462.84 (3.5%)
	ガスの削減	総量 (m <sup>3</sup> / 年)	44.6	67.1	65.8 (2%)	65.1 (3%)	64.75 (3.5%)
	ガソリンの削減	総量 (ℓ / 年)	10047.69	11251.58	11026.55 (2%)	10914.03 (3%)	10857.77 (3.5%)
	CO <sub>2</sub> の削減 (上記の合計)	総量 (t / 年)	74.994	80.998	79.379 (2%)	78.569 (3%)	78.163 (3.5%)
節水	総排水量削減	総量 (m <sup>3</sup> / 年)	546	2014 年度実績 631	625 (1%)	618 (2%)	612 (3%)
廃棄物量の削減	一般廃棄物削減	総量 (kg / 年)	874.2	2012 年度実績 585.6	579.8 (1%)	865.5 (1%)	861.1 (1.5%)
	産業廃棄物の削減	総量 (kg / 年)	5652.1	4045.1	4004.6 (1%)	5595.6 (1%)	5567.3 (1.5%)
	段ボールの再利用	再利用率 (kg / 年)	リサイクル率 100%	リサイクル率 100%	リサイクル率 100%	リサイクル率 100%	リサイクル率 100%
グリーン調達の推進	事務用品等の購入		現状購入品については少量であるが、長期にかけて 100%を目指す。				
製品への環境配慮	①販売時の包装の簡易化 (品証) ②負荷の少ない工法 (製造) ③環境に配慮した原材料の購入 (管理) ④顧客へのアピール (管理)		各部の目標に向け、活動に繋げる。 長期的に数値化出来る様活動する。				

(電力：日本テクノ(株)2013 年度実排出係数 0.482 (kg-CO<sub>2</sub>/kwh) の換算値を使用。)

- CO<sub>2</sub> の削減は目標を達成したが、今期も中期目標である、当初の 3ヶ年目標の 3 年目の目標数値を目指し 2013 年度実績 (BM) から -3% の目標にする。ガスは業務上で使用する事が少ない為、2016 年度の環境目標からは外すが使用量は記録し CO<sub>2</sub> に換算する。
- 一般廃棄物は 3 年連続未達成だった為、BM を見直し 2014 年 9 月から 2015 年 8 月(2015 年度)の実績を基に BM を再設定した。産業廃棄物は 2 年連続未達成だった為、2014 年 9 月から 2015 年 8 月(2015 年度)実績を基に BM を再設定した。一般及び産業廃棄物は目標数値を修正し直した。2016 年度からプレス工場の合併に伴い廃棄物は増える事が予想される。
- 水道は 2ヶ月に 1 回の測定 前期は、水道管(φ数)及びメーター交換により数値に大きな変動が見られた。その為、新たに 2014 年度実績 (BM) にし目標を達成したが使用量の推移を監視する為、2014 年度実績 (BM) を基に 3ヶ年目標 2 年目の目標数値 -2% の目標にする。
- 2017 年度が終了した時点で中期目標の見直しをする。
- この他に次のことに取り組みます。
  - ・化学物質を正しく使用し管理 (棚卸し等) 削減にむけて活動する。

# 環境目標・活動計画と評価

対象期間(2014年9月～2015年8月)までの目標とその実績についての計画と評価

取り組み項目	達成状況	評価(結果と今後の方向)
二酸化炭素排出量の削減	電力・ガス・ガソリン等の削減 B.M に対し-7.4% 達成 2%目標に対し 達成率 106%	目標数値に対しては達成した。ガス、ガソリンの削減率が大きかった。ガス使用量は少ない為、来季から環境目標から外すが使用量は記録しCO2に換算する。ガソリンでは社用車が1台入替えにより燃費の向上に繋がった。CO2の削減は厳しくなっており出来る限り増えないように活動内容を見守る。
節水	総排水量の削減 B.M に対し-13.5% 達成 1%目標に対し 達成率 114%	目標数値に対し達成となった。前期、水道管(φ数)及びメーター交換をした事が影響した為と思われる。再度数値を見直し更に、元栓を約2割程度絞っておりその効果が出たと思われる。
一廃棄物量の削減	一般廃棄物の削減 B.M に対し+49.3% 未達成 1%目標に対し 達成率 66%	3年連続の未達成だった。品証部内の廃棄物が多かった様だがBM そのものが東日本震災後に仕事量が減少した時の数値になっており仕方ない部分である。今期は新たにBMを再設定し様子を見守る。
	産業廃棄物の削減 B.M に対し+39.7% 未達成 1%目標に対し 達成率 72%	2年連続の未達成だった。一般と同様にBMが震災後の数値の為、削減が厳しくなっている。今期はBMを再設定した。仕事量に影響されやすいが一般、産廃のほとんどをRPFとして再利用しており廃棄処分はしていない。
化学物質の使用と管理	使用化学物質の種類を把握し正しく管理する。 社内にあるインクや溶剤等の使用状況・保管量を把握する。	棚卸し等の管理を行い、今迄以上の管理が出来た。今期も有機溶剤を安全に、正しく使用していく。
グリーン調達 の推進	事務用品等の購入 少量ではあるが目標に対し活動した。	長期にかけて100%を目指す。
製品への 環境配慮	①販売時の包装の簡易化(品証) ②負荷の少ない工法(製造) ③環境に配慮した原材料の購入(管理) 顧客へのアピール(管理)	①各部内で検討と社外からの情報提供依頼 ①各部の目標に向け活動に繋げる。 ②長期的には数値化出来る様活動する。

(総評)EA21の取り組みも長くなり各目標に対して削減が厳しくなっているようである。今後は何かテーマや目的をもって削減活動すると成果が出やすいかもしれない。たとえば、不良を減らす、余剰在庫を作らない、ペーパーレス化また、ISO9001と連携した活動することも必要な時期に来ていると思われる。その結果としてコスト的な成果も期待できる。また、今期はレイクタウン工場も加わりEA21の取り組みも必要になり、BMの設定や従業員教育など早急に実施しなければならない。大震災から数年たち緊急時への危機意識が全体に薄れている感じが見受けられる。この機会に是非、緊急時を想定した環境整備について再考したい。

## 環境関連法の遵守状況

環境関連法規等にとり、遵守しています。

「埼玉工場に適用とする環境関連法規一覧表」を基にその遵守状況を評価した結果、遵守していることを確認した。また、過去 5 年間にわたって違反や訴訟は 1 件も発生していません。

昭和ネームプレート株式会社埼玉工場

代表取締役社長 瀬田昭男

管理責任者 神谷丈夫

2015.10.21